

城北防災だより

2019/8/1
21号
城北地区防災対策協議会
事務局：城北地区公民館

「避難訓練8.25〈住民〉説明会」を開催しました。

7月27日と28日の二日間「避難訓練〈住民〉説明会」を開催しました。

本年度の「避難訓練」の具体的な行動(内容)と同時に、城北地区の「水害リスク」と住民個々が「避難判断」をする場合の、情報収集の仕方や判断の視点をスライドを使って説明させて頂きました。

住民のみなさんにお伝えした内容の、要点を下記にまとめました。

1. 洪水は、氾濫水がどこから来るかで2タイプに区分されます。

降った雨が地面に溜まって(はけなくて)浸水する「内水氾濫」と、川から水が溢れ出て浸水する「外水氾濫」とでは、対応に違いがあります。

城北地区は、「内水氾濫」・「外水氾濫」のリスクの高い地域です。

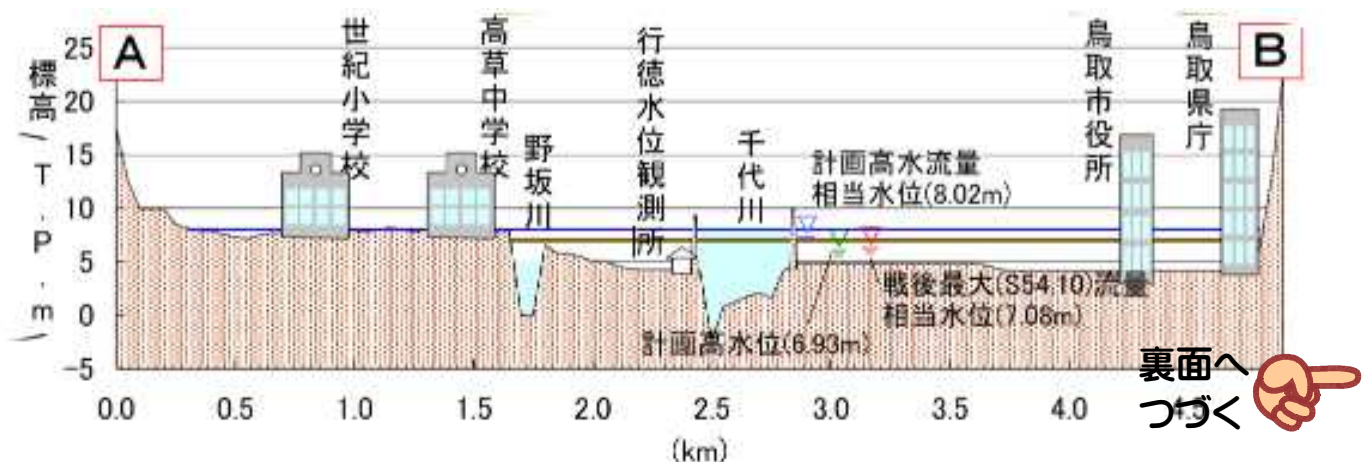
2. 千代川の3つの特徴

①千代川は全国的に見ても有数の急流河川です。水の流れのエネルギーが大きい
ため、川岸や護岸が洗掘されやすく、下流部では土砂が堆積しやすい特徴が
あります。洪水時の初動時間が短かく、**上流域で降った雨水は約3時間で城北地
区に達します。**

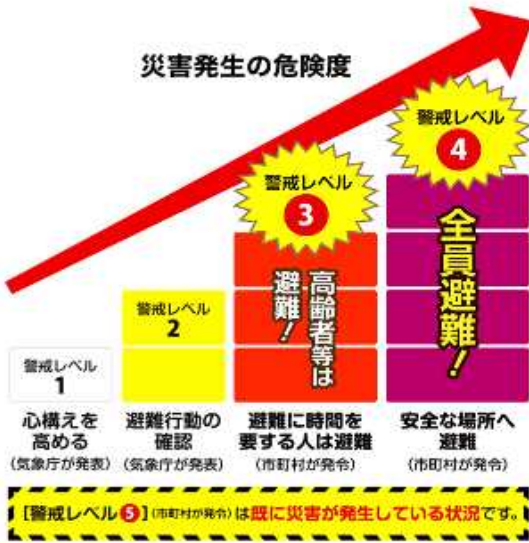
②同規模の支川が放射状に合流する流域形状〈沖積平野〉であるため、洪水が鳥
取平野に向かって同時に集中し、水位の上昇が急激となるため**洪水時の対応時
間が短い**という特徴があります。【外水氾濫のリスクが高い】

③千代川下流域の鳥取平野は、低平地であることから水害を受けやすく、水はけ
が悪いという特徴があります。【内水氾濫のリスクが高い】

水はけが悪いので、千代川の堤防が決壊すると城北地区は、**3~5m水没し半日
から1日未滿 浸水したまま**となります。(鳥取河川国道事務所作成資料(H24年4月)浸水想定)



3. 自分や大切な人の命を守る防災情報の収集と避難



鳥取河川国道事務所による想定最大規模降雨48時間508mmでの浸水想定区域図(ハザードマップ)や、狐川流域の内水被害想定48時間降水量357mmで床下浸水……。千代川氾濫発生想定試算【県防災顧問(洪水対策専門):鳥取大学大学院工学研究科梶川勇樹 准教授】によると、『1時間雨量25mmで、3時間千代川流域にまんべんなく雨が降り続ければ千代川は氾濫します。(但し、浸透は無視して計算)』という想定や、上記の千代川の特徴を念頭に置き、防災情報を入力する必要があります。1日先までの気象情報と、千代川と支川の水位情報が重要になります。

鳥取市が発令する『避難指示』等の避難情報は、避難所を開設(準備)した時点で発令されますから、千代川の特徴からして遅れることも想定しておく必要があります。

なにより、**避難所に「避難」することだけが『避難』ではありません!**

切迫度合い		内容	具体的場所	留意点
平常 ↑ 緊急	水平避難(遠距離)	実家、知り合い宅等遠隔地へ移動	実家、知り合い宅	発災後の状況確認が困難
	水平避難(長距離)	居住地と異なる安全な場所へ移動	広域避難場所等	時間的余裕をもって移動する必要
	水平避難(近距離)	近隣のより安全な場所へ移動	一時(1次)避難場所、一時(1次)集合場所等	あくまでも一時的な避難先
	垂直避難	切迫した段階で上層階へ移動	自宅の2階、居住建物の高層階	孤立化する可能性 救助までの間、自立が必要
緊急	(待避)	避難すること自体が危険な状況であり、その場に留まる	自宅内の安全な場所	そのまま被災する可能性 救助を受ける可能性

水害の事前避難には『垂直避難』と3タイプ(近距離・長距離・遠距離)の『水平避難』があります。

被害が発生するまでの**猶予時間**(リードタイム)を有効に活用して、浸水しそうであれば「ホテルに宿泊する」といった避難方法も考えら

れます。公的な避難所には、全員が避難するだけのキャパシティはありません。

4. 城北地区の防災行動【コミュニティ防災】

「一人ひとりの命は、まず自分で守る……。」

そして、家族、ご近所、町内会・城北地区(自治会)へと助け合いの輪を広げ、「自分たちのまちは自分たちで守る」という取り組みです。

声をかけあって(危険をみんなに知らせ合い) **みんなで逃げる!**(避難)

- ◎水が来る前に逃げる!!
- ◎水が来ないところに逃げる!

紙数の関係で、要点のみとさせていただきました。城北地区公民館に、「避難訓練(住民)説明会」の資料(印刷が不鮮明な部分がありますが……)の残部を置いています。必要な方は自由にお持ち帰りください。